

小5女児殺害 無期判決

「残虐性突出せず」死刑回避

福岡地裁支部

福岡県前市で昨年1月、小学5年の女児(当時10)を殺害し、殺人や死体遺棄などの罪に問われた土建業内間利幸被告の裁判員裁判で福岡地裁小倉支部は3日、「最悪の性犯罪で刑は重大」として無期懲役の判決を言い渡した。死刑求刑に對過去の判例との比較から「突出した残虐性、猟奇性はなく、死料すほどに生命軽視の度合いが甚大とは言えない」と判断した。

理由は柴田寿宏「た女児を言葉巧みに誘拐して暴行した上、顔見知りだ」と誘拐して暴行した上、動機に酌量の余地はない。女児の夢や希望、未来を奪い去った結果は重い」と厳しく非難した。被告には、小学生を含む女性らに対する性犯罪の前科があり「犯罪性は根深く、更生は困難」とも述べた。

期間服役し再犯防止プログラムを受けていたことを踏まえて「更生は期待できず、被害者が1人とはいえ、死刑が相当だ」と主張していた。

判決後、女児の遺族は弁護士を通じて「納得できません。娘のためにも、二度と被害者を出さないためにも、強く死刑判決を求めたい」とのコメントを出し、検察側に控訴を求め、検察側は「判決内容を見直し、上級庁と協議の上、適切に対応したい」とした。



（イラストと構成・田代耕一）

判決によると、豊前市内で昨年1月31日、わいせつ目的で女児を誘拐し、首を手で強く絞めて窒息死させ、遺体をバッグに入れて自宅に隠し、遺棄した。検察側は、被告が長

害事件で、無期懲役判決を受けた内間利幸被告(47)は、少女らに対する強姦致傷罪などの性犯罪前科が複数あり、受刑中に再犯防止プログラムを受けていた。3日の判決も事件がわいせつ目的だったと認定。繰り返された悲劇に、専門家は「矯正するだけでなく、性犯罪を病気と認め、治療すべきだ」と訴える。

「監視」に賛否

「今の社会では犯罪者から子どもを守れない」。証言台に立った女児の父親の訴えが法廷に響いた。地域住民は誰も内間被告の前科を知らず、遺族は被告宅に遊びに行かせたことを悔やんだ。

地域住民を守るためにはどうすればいいのか。後藤元秀豊前市長は、性犯罪で服役した人の出所情報は自治体に入らないとし「再犯防止のため、性犯罪前科のある出所者を警察の監視下に置くべきだ」と主張する。

海外では、司法当局が出所者の衛星利用測位システム(GPS)情報を監視したり、住所をインターネットで公開したりする例もある。ただ刑との二重処罰だ。「効果が検証されていない」との指摘もあり、日本での導入には、法曹界を中心に根強い反対論が

再犯防止策 機能せず

専門家「病気と認め治療を」

対策は2本柱

日本の再犯防止策は、受刑者を対象とした矯正プログラムと、警察による出所後の所在確認の2本柱からなる。法務省は2006年7月、

精神療法の一種の認知行動療法に基づくプログラムを開始。受刑者は臨床心理士と共に、性犯罪につながる思考や感情を探り、再犯防止の具体策をつくる。また、警察庁は05年6月から、13歳未満への性犯罪歴がある出所者の所在を把握し、居住地の警察署が定期的に所在を確認している。

内間被告は前回の受刑中、プログラムに沿い、半年にわたり1000分間の講座を約50回受講。出所後は豊前署から月に1度、電話で生活状況を

知る元刑務官は、模範囚で頼が厚かったとし「現状の再犯防止策は機能しなかったと嘆く。

保険適用訴え

「日本は欧米に30年遅れている」。NPO法人「性障専門医療センター」(東京)の代表理事を務める福井裕医師(47)は、世界の主流を知行動療法と薬物療法の併用だと指摘する。出所後の再犯防止策は、刑務所という感のない環境よりも効果がめるといふ。同意を得たという。好に障害のある人に対し、欲を抑える抗男性ホルモンを投与する。

日本でも唯一、これら二つの治療を施すセンターには、250人以上の患者が訪れる。治療には3～5年かかる。「継続した人の再犯率が低い。被害者を生まないため、は加害者を治すしかない」と福井医師は治療の拡大と促す適用を訴える。

「とても優しい子でした。自分のようなつらい思いをもつ誰にもさせたくない」と述べているはずだ。女児と両親の思いを無駄にしない。再犯防止策は何か、国民的議論が求められている。

性犯罪

児童ポルノの閲覧など、犯罪のきっかけとなった出来事を振り返り、その時の感情や思考を思い出す

例 興奮し性行為しか考えられず、通学路を徘徊

↓
被害者の立場で自分への手紙を書くなどして、思考のゆがみを知る

例 被害者は嫌がってはいないと思ったが、本当は絶望していた

↓
犯罪のきっかけとなる行動を抑える具体的な方法を考え、日常生活で思考のゆがみを修正する練習を続ける

例 ポルノサイトへのアクセスを制限、被害者の立場になって考える

※精神科医や臨床心理士のサポートを受けて進める

認知行動療法の流れ(イメージ)